

AIに刺さるサイト制作

製造業から請け負い

製造業のデジタルマーケティングを支援するデジタルベリーは、生成AI（人工知能）に推薦されやすいサイト制作を請け負うサービスを始めた。8日に東京証券取引所のプロ投資家向け市場に上場し、AI普及に対応したサービスを成長エンジンに据える。

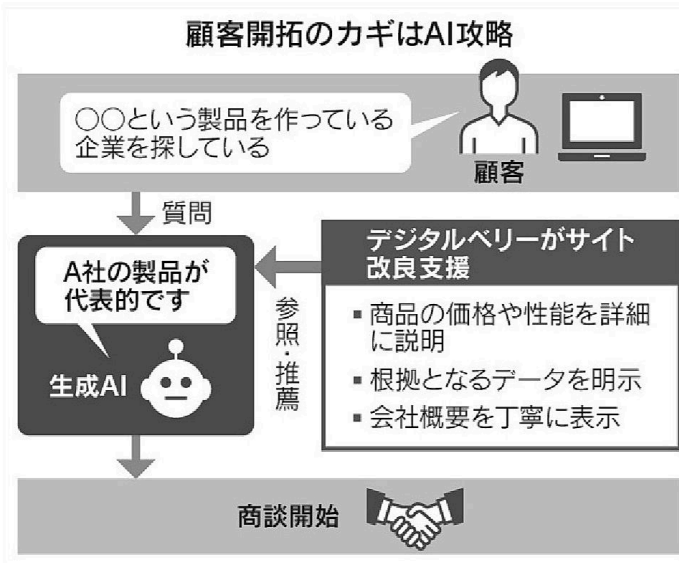
新サービス「AIO（AI最適化）対策ドットコム」は6月に本格的なサービスを始めた。ネットを通じて新たな取引先を探す際に、従来の検索で

デジタルベリー



デジタルベリーが支援した昭和技研工業のサイトはAIが読みやすい構造をとる—デジタルベリー提供

ネット経由で顧客開拓



は、AIが情報の意味や関連性を理解しやすくなるためだ。FAQ（よくある質問）形式のコンテンツも充実させ、利用者がAIに投げかける質問に回答しやすいサイト構成を整える。

具体的には、製品の仕様や性能、導入実績などを根拠となるデータとともに項目ごとに整理する。同社がAIO対策を請け負った昭和技研工業（埼玉県伊奈町）はサイトのFAQ欄で58のQ&Aを掲載し、問い合わせ

が多い項目の回答を明確に伝えるように作り替えた。業績や主要取引先、導入実績などの情報も充実させ、AIがサイトの信頼性を判断する際の材料を増やした。

これらの対策を講じた結果、同社の主力である「ロータリージョイント」をグローバルで検索した場合、検索結果の最上部にAIが自動生成して表示する「AI Overviews」で同社が最上位に掲載されることが増えたという。

デジタルベリーは企業のニーズに応じたAI対策のパッケージを提供する。導入に向けた初期調査は20万円から請け負い、ホームページの改修に加えてSNSなども含めたAI対策支援などのメニューも用意。これまでに製造業を中心に39社が利用している。

英調査会社ユーロモニターが日本や欧米など44カ国を対象に実施した消費財の電子商取引（EC）購買調査（2025年）によると、AI経由のサイト流入数は前年の約12倍に増えた。商品やサービスを選ぶ際に複数のサイトを訪れることが減っており、AIに紹介され

るかどうかが販路開拓の成否を分けるようになってい

る。デジタルベリーは04年に創業。ホームページ制作を通じて製造業のデジタルマーケティングを支援する「製造業ドットコム」を主力とする。これまで350社のサイト作成を手掛け、8日に東証の「東京プロマーケット」に株式を上場した。製造業を中心にサービスを提供してきたため、も伝えていきたい」と話している。（吉田渉）

東証プロ市場に上場



製造業のデジタルマーケティングを支援するデジタルベリーは8日、東京証券取引所のプロ投資家向け市場「東京プロマーケット」に上場した。上場式典後に記者会見した赤羽根康男社長は「中長期的に東証スタンダード市場への上場を目指す」と話した。

同社は2004年に創業し、埼玉県を地盤にサイト制作などを通じて製造業の顧客開拓を支援する。赤羽根社長（前列中央）は「東証スタンダード市場への上場を目指す」と話した（8日、東証）

京証券取引所のプロ投資家向け市場「東京プロマーケット」に上場した。26年3月期単独決算は売上高が2億6200万円、税引き利益は700万円。27年3月期は売上高2億9500万円、税引き利益1500万円を見込む。

赤羽根氏は「信用力の向上と人材確保などが上場の目的」と語った。内部管理と企業統治の体制の強化にもつなげる。製造業のサイトの人工知能（AI）最適化支援など新たなビジネスを育て、顧客開拓を進める。